

司式:中川信明
奏楽:堀口恵美

前奏:「たえにうるわしや暁の星よ」(J.パッヘルベル)

招詞:わたしはエルサレムを喜びとし、わたしの民を楽しみとする。泣く声、叫ぶ声は、再び
その中に響くことがない。(イザ65:19)

讃美歌:こどもさんびか 2(『21』205「今日は光が」)

交読詩編 40:6-14

- 06 わたしの神、主よ/あなたは多くの不思議な業を成し遂げられます。あなたに並ぶものは
ありません。わたしたちに対する数知れない御計らいを/わたしは語り伝えて行きます。
- 07 あなたはいけにえも、穀物の供え物も望まず/焼き尽くす供え物も/罪の代償の供え物も
求めず/ただ、わたしの耳を開いてくださいました。
- 08 そこでわたしは申します。御覧ください、わたしは来ております。わたしのことは/巻物
に記されております。
- 09 わたしの神よ、御旨を行うことをわたしは望み/あなたの教えを胸に刻み
- 10 大いなる集会で正しく良い知らせを伝え/決して唇を閉じません。主よ、あなたはそれを
ご存じます。
- 11 恵みの御業を心に秘めておくことなく/大いなる集会であなたの真実と救いを語り/慈し
みとまことを隠さずに語りました。
- 12 主よ、あなたも憐れみの心を閉ざすことなく/慈しみとまことによって/いつもわたしを
お守りください。
- 13 悪はわたしにからみつき、数えきれません。わたしは自分の罪に捕えられ/何も見えな
くなりました。その数は髪の毛よりも多く/わたしは心挫けています。
- 14 主よ、走り寄ってわたしを救ってください。主よ、急いでわたしを助けてください。

朗読聖書: マタイによる福音書 24:1-14

◆神殿の崩壊を予告する

- 01 イエスが神殿の境内を出て行かれると、弟子たちが近寄って来て、イエスに神殿の建物を
指さした。
- 02 そこで、イエスは言われた。「これらすべての物を見ないのか。はっきり言っておく。一
つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」

◆終末の徴

- 03 イエスがオリーブ山で座っておられると、弟子たちがやって来て、ひそかに言った。
「おっしゃってください。そのことはいつ起こるのですか。また、あなたが来られて世の
終わるときには、どんな徴があるのですか。」
- 04 イエスはお答えになった。「人に惑わされないように気をつけなさい。
- 05 わたしの名を名乗る者が大勢現れ、『わたしがメシアだ』と言って、多くの人を惑わすだ
ろう。
- 06 戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞くだろうが、慌てないように気をつけなさい。そういう
ことは起こるに決まっているが、まだ世の終わりではない。
- 07 民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。
- 08 しかし、これらはすべて産みの苦しみの始まりである。
- 09 そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなた
がたはあらゆる民に憎まれる。
- 10 そのとき、多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合うようになる。
- 11 偽預言者も大勢現れ、多くの人を惑わす。
- 12 不法がはびこるので、多くの人々の愛が冷える。

13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

14 そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それ
から、終わりが来る。」

祈祷

イエス・キリストと私たちの父なる神さま。聖名を賛美します。本日も
また、一人ひとりの名前を呼んで礼拝堂に集められ、またライブ配信を通
して礼拝に与ることができる恵みを感謝します。特に本日は、教会学校の子
供たちと教会の大人が共に礼拝に与る全体礼拝であります。この礼拝を通
して、私たちが神さまの下で一つの家族である喜びを分かち合いしたい
と思います。

今日はこれから子供たちへの御言葉の説き明かしを中川真明校長より、
またを大人への御言葉の説き明かしを佃牧師より伺います。語る真明校長、
佃牧師の上に力を与えてくださると共に、聞く私たちが御言葉をしっかり
受け止めることができるよう耳と心を開いてください。また、この後、佃
牧師を通して、あなたは子供たちを祝福してくださいます。この祝福を感
謝し、子供たちが神さまの子供であることを自覚し、これからもあなたに
よって健康を守られ、良き導きがなされますよう祈り願います。

世界の平和のために祈ります。パレスチナの地では一年三ヶ月にわたる
戦争が続けられ、4万6千人に及ぶパレスチナの人々が殺されてきました
が、やっとイスラエルとハマスの間で停戦が合意されることになりました。
この停戦が守られ、命の危機に曝されてきた人々が少しでも癒され、また
双方の人質が解放され、平穏な日々が訪れますよう切に祈ります。また、
ウクライナで続いている戦争も一日も早く終わりますようお祈り致します。

一昨日は阪神淡路大震災から30年の時が経つ日でした。日本では、そ
の後も東日本大震災、熊本大震災、そして昨年の能登半島の震災と大きな
地震が続き、その度に多くの人々の家族や生活が失われ、辛い日々を送っ
て来られました。あなたがそのような人々に寄り添い、生活の再建の手助
けをしてくださいますよう、また、私たちも少しでも手助けをして行くこ
とができますようお導き願います。

今私たちの導き手の一人である鮎川健一牧師が怪我のため入院治療中
です。どうかあなたが鮎川牧師の傷をできるだけ早く癒してくださいます
ようお願い申し上げます。また、教会の群れの中には、病のため、ご高齢の
為に礼拝に参加できない方々が多くいらっしゃいます。どうかあなたが
そのような方々お一人お一人に寄り添ってくださり、癒しと安らぎを与え
てくださいますよう切に祈ります。

ここに集められた私たちは、今日与えられた御言葉を糧に、今週1週間
もあなたによって力づけられ、罪の誘惑に負けないう、あなたに従って
歩んでいくことができますよう祈り願います。

この祈りをイエス・キリストの聖名を通してお献げ致します。アーメン

讃美歌:こどもさんびか 121(『21』509「光の子になるために」)

子どもへの説教「新しい希望」

中川真明

お早うございます。今朝は幼稚園から中・高等科の児童、生徒の皆さん、
そして保護者の方々、教会員、求道者の方々と、更にライブ配信を通して、
多くの方々と共に神さまに礼拝をお献げすることができ、とても嬉しく思
っています。短くメッセージをしますので一生懸命聞いてくださいね。

先ほど中川信明さんに読んでいただいた聖書の御言葉の中に、「終末」という言葉が出てきました。難しい言葉ですね。終末という言葉は、キリスト教の考え方の中でとても大切なことなんです。この終末についてイエスさまがお弟子さんたちにはっきりと教えていらっしゃるのが今日の場面です。

まずは終末のしるし、つまり世の終わりの兆し、前兆、どんなことが起こるのかについて、いくつかのことを具体的に仰っています。一つ目は、偽物のキリストが現れるということです。今の世の中でもイエスを名乗った偽物が現れることがあります。その“偽キリストが人々を惑わすことになるので気をつけなさい”と仰っています。二つ目は戦争です。今のお祈りの中にもありましたように、今まさにウクライナやパレスチナで戦争が起っていて、多くの命が失われ、皆さんも心を痛めていることでしょう。私たちは二度の世界大戦を経験していることを皆さんもご存じのことと思います。第三次世界大戦が起こる危険性も大きいです。しかし、“慌てるな、まだ世の終わりではない”とイエスさまは仰っています。三つ目は様々な対立です。国と国、民族と民族の対立が世界の至る所で起っています。四つ目は天変地異のことです。これも先ほどお祈りの中で触れられましたけれども、世界各地で大きな自身が起っています。またアジアやアフリカの飢饉は常にあって、食べるものがなくて命を落とす方もたくさんいらっしゃいます。このようにイエスさまが2000年以上前に終末の前兆として語られたことは恐ろしいほど今の現実となっているのです。

ただ8節の御言葉に注目しましょう。イエスさまは、これらは“産みの苦しみの始まりである”と仰っているのです。産みの苦しみ、つまり赤ちゃんを産むときには激しい痛みと苦しみを伴います。しかし、それを乗り越えると、新しい命の誕生という大きな喜びがあるんです。苦しみの後に何十倍、何百倍もの大きな喜びがあるんです。9節以降には更に幾つかの前兆について仰っていますが、それは先ほど触れましたように、終末の苦難、終末の苦しみです。神さまの救いが来る前は苦難の時であるということです。イエスさまに従っているということで、人々から憎まれたり、迫害されるということが語られます。実際、この場面での出来事の後には、お弟子さんたちが捕らえられ、裁判にかけられることが『使徒言行録』に記されています。その他にも様々な場面で、ここで語られていることが現実のものとなっています。

ここまで読んでくると辛く苦しいことの連続で絶望さえ感じるのですが、先ほどから述べていますように、これで終わりなのではありません。イエスさまは終末の希望について述べられています。苦難は辛いもの苦しいものですが、その先には神さまによる救いがあり、希望があると仰っているのです。先ほど触れました、これらは生みの苦しみの始まりであるという言葉にも表れていますし、12節には「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」と書かれています。苦難を堪え忍ぶことによって、私たちに新しい希望が与えられるんです。永遠の命を得て、神さまの救いに与ることができる、神さまの御国に入ることができるんです。“世の終わりというのは滅びてしまうことではなくて、新たな希望に充ちた時代の始まり”とも言えるんです。

私たちはともすると、この世の現実に押し潰されそうになることが多くあります。神さまのご計画を信じ、神さまにお委ねし、信仰を持って歩いていくことがいかに大切なことであるかを改めて考えさせられます。皆さん希望を持って歩いてまいりましょう。お祈りいたしましょう。お祈りの

用意をしてください。

天の父なる神さま。あなたの大的なる聖名を賛美致します。どうぞ御国を来たらしてくださいませうように。

今日は子供たちから大人の方まで、共に集って全体礼拝を神さまにお献げすることができましたことを心より感謝申し上げます。

教会学校の歩みはとても小さなものではありませんが、神さまが祝していただき、福音の宣教のために生かしてくださいますように。教会学校につながっている子供たち、保護者の方々の上に特別な御顧みをお祈りいたします。

鮎川先生のお怪我が少しでも早く癒されますように。

今日は終末についてのイエスさまの御言葉から学びました。私たち一人ひとりが色々なことに惑わされることなく、神さまのご計画を信じ、希望を持って歩いていくことができますように。

溢れる感謝と願いとを尊き主イエスキリストの聖名によってお献げいたします。アーメン

子どもの祝福

讃美歌:471(勝利をのぞみ)

説教「福音は全世界へ」

佃 雅之

今日の箇所は「終末」についての教えが語られています。私たちは聖書に記された「終末」という言葉の意味を正しく受け止め理解することができていでしょうか？ 今日の3節にも、「世の終わるとき」とあります。聖書は「主の日」、「その日」、「終わりの日」など色々な言い方で「終末」を語っています。「終末」という言葉は一般的には恐れや不安を感じる言葉であるように思います。しかし、「終わり」と訳されている言葉(συντέλεια)は「完成、完了」を意味する言葉ですから、弟子たちはキリストに、“あなたが来られて世の完成する時にはどのような徴があるのですか？”と、聞いているのです。ですから、私たちキリスト者にとって“終末というのは待ち望むもの”であります。キリストが再び来られて神の国が完成する時であるからです。

今日の箇所でもキリストは終末の徴について語られる前に、神殿が崩壊することを預言されています。この時、弟子たちが指さし、キリストが見ておられるのは、大きく美しいエルサレム神殿です。キリストは神殿を見ながら、「これらすべての物を見ないのか」と言われました。私たちはこの言葉の意味を正確に捉える必要があります。最初にエルサレム神殿が建てられたのは紀元前10世紀のことです。イスラエル三代目の王ソロモンによって建築されたことが旧約聖書の列王記と歴代誌に書かれています。神殿を建築することは、神に導かれ、約束の地を目指してエジプトを脱出したイスラエルの人たちにとって特別な意味があります。今、私たちは約束の地にいる、約束の地に神の臨在の徴としての神殿が建つ、神殿を土台として神の国の拡大を目指して新しい神の民の歴史が始まります。しかし、この時、ソロモンによって建てられた神殿は紀元前6世紀に新バビロニア帝国によって破壊されてしまいます。その後50年の時を経て神殿は再建されますが、今、キリストが見ておられる神殿に神はおられません。今日の箇所の前にはっきりと書かれています。23章でキリストは激しく律法学者とファリサイ派の人々を非難されています。彼らは律法の専門家、宗教指導者でありながら、「言うだけで実行しない」(23:3)「偽善者」だ。口では“神よ、神よ”と

言いながら神に背いている、神から離れてしまっている人たちだと言われています。彼らは神の言葉を取り次いだ「預言者たちを殺し、遣わされた人々を石で打ち殺した」(23:37)のです。「エルサレム、エルサレム」と呼掛けてくださる神の声に聞き従わず、「神殿を自分の物かのように思っている、自分の力を誇るために神殿を利用している、ですから当然神殿は滅びることになる」と言われるのです。38 節でキリストは、「見よ、お前たちの家は見捨てられて荒れ果てる」と言われています。キリストが「これらすべての物を見ないのか」(24:2)と言われたのは、建物のことだけでなく、神のご計画、神の審きのことを言われています。どのような建物も、建てる時には多くの人の思いがあり、歴史と計画があるものです。しかし、その背後には神のご計画があり、神の裁きがあります。「一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」この言葉は主のご計画と審きの言葉です。神が求められるのは人の手によって作られた建物ではありません。神が求められているものは、神と隣人を愛する私たちの魂であります。キリストが言われた「これらすべての物を見ないのか。はっきり言っておく。一つの石もここで崩されずに他の石の上に残ることはない。」この言葉はエルサレム神殿だけのことでなく、今この地上に立つすべての教会に向けて語られた預言の言葉であるかもしれません。今、あなたの属する教会は、神中心のものになっているか、知らず知らずのうちに、人間が中心になってしまっているか、今、あなた方の教会は神のために、神の栄光を現すために立っているのかと、キリストは問われているのです。このときの弟子たちはキリストの真意を汲み取ることができませんでした。建物の大きさと美しさに圧倒されて神殿が崩壊するというキリストの言葉を信じるができなかったのです。歴史的に言えば紀元 70 年、キリストが十字架にかけられて死んで葬られ復活されて天に昇られてから 40 年が過ぎた頃、この時キリスト弟子たちが見ていたエルサレム神殿はローマ軍によって破壊されています。エルサレム神殿はキリストの言葉通りに破壊されて、今は僅かに『嘆きの壁』だけが残っていることを私たちは知っています。キリストの言葉、聖書に記された出来事は必ず実現されます。

神殿を去り、オリブ山に向かわれたキリストに弟子たちが問いかけます。「そのことはいつ起こるのですか。また、あなたが来られて世の終わるときには、どんな徴があるのですか。」キリストは「終わりの日がいつなのか」という問いには、お答えにはなりません。徴を教えてください。「人に惑わされないように気をつけなさい。」これがキリストの最初の答えです。次に、「慌てないように気をつけなさい。」答えの中で「気をつけなさい」という同じ言葉が繰り返されています。「気をつけなさい」というのは、いずれも「よく見なさい」という言葉《プロポ- (βλέπω) [見る。見分ける。~の方を見る]》が使われています。今日の箇所キリストが弟子たちに最初に語ったことも、「これらすべての物を見ないのか」と言うことでした。「見なさい(プロポ-)」という言葉には「見分ける」という意味が含まれています。つまり、この時の弟子たちは、自分の目に映ることに捉われていて、神のご計画と人間の計画を見分けることができなかつたのです。私たちにも、日々徴が表わされています。私たちはその徴を見逃すことなく、また正しく見分けることができているのでしょうか。

まずは第一に、自分の今置かれているところで、自分の目に映ることをしっかり見据えることが必要です。神のご計画も審きも私たちが生きているこの場所で示されるのです。終末の徴はありのままの状況の中で示されます。私たちは自分の周りをよく見る必要があります。周りだけでなく自分自身からも目を離さず、いっそう良く見分けることが必要なのです。

キリストの語られた徴は、この世の事柄と教会に表される事柄の二つの事柄に分けて示されています。この世の事柄として「偽メシアの出現」、「戦争の騒ぎや噂」、「飢饉や地震」、「これはすべて産みの苦しみの始まりである」とキリストは言われています。「産みの痛み」ということは、新しい何かが生み出される徴であるということでしょう。そして 9 節以下からは、「あなたがた」と言われていますから、弟子たち、教会に表される徴です。「苦しみを受け、殺される」、「あなた方は憎まれる」、これは、教会が周りの人たちから迫害されることを意味しています。続けて、教会の中で起こることが示されます。「多くの人がつまずき、互いに裏切り、憎み合う」、「偽預言者が現れる」、その結果として、「不法がはびこり」「愛が冷える。」ここに語られた徴は、将来起きることの予告ではありません。今既に起こっている事柄です。この福音書を書いたマタイの時代も、今の私たちも知らされている、経験していることばかりではないでしょうか。この世の混乱のただ中に教会はあります。私たちはその中で生きていかなければなりません。戦争、飢饉、地震、そして迫害、それだけでなく、教会内の分裂、対立、この悲劇の原因は「愛が冷える」ことであるとキリストは言われています。「愛が冷える」というのは具体的にどういふことでしょうか。この言葉を、「自己中心性への墮落」と注解する人がいます。この地上で最も多く「愛」が語られている教会で「愛が冷える」ということほど悲劇はないと言うことです。私たちの愛は冷えてはいませんか。教会の中で、牧師と長老の間で、兄弟姉妹との間で、「愛が冷える」という事実が起こってはいませんか。表面的に見れば、揉め事があるわけではありません。礼拝も教会の行事も滞りなく行われています。しかし「愛が冷えている」、「愛がない」、「言ってもしょうがない」、「なるようにしかならない」と諦めや無関心が教会を支配してはいませんか。最も愛が語られ、愛が実践されていなければならないはずの教会で、愛が萎み、萎えているということはないでしょうか。もし「愛が冷え」てしまっているのなら、冷たい愛に教会が支配されてしまったら、その教会はキリストの教会ではなくなりかけているということになります。

しかし、キリストは、13 節で「最後まで耐え忍ぶ者は救われる」と言われています。「不法がはびこり」、「愛が冷える」ことに苦しみながら、教会は最後まで耐え忍ぶことが求められています。受ける試練と苦しみが強く深ければ、それだけ自己の使命がなんであるかを知らされ、目覚めることができるからです。「方々で戦争や飢饉や地震が起こる」というような絶望的なことが続く中にあっても、「もう終わりだ」と諦めるのではなくて、それは「産みの痛み」であって。その時こそ、「神の国の始まりなのだ」と言われているのです。教会は新しい命を生み出すために、福音を宣べ伝えて、神の国に招かれる人を生み出すために、「耐え忍ぶ」のであります。

キリストは言われます。「そして、御国のこの福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。」と。ここでキリストが言われていることは、「戦争や飢饉や地震、教会の迫害や教会内部の崩壊が終末に興ることではなくて、福音が全世界に宣べ伝えられた時こそが本当の終末の徴だ」ということです。私たちの目に価値あるものと思えたのが崩れたときにこそ、神の存在が、かえって鮮明に映し出されるということが起きます。今、与えられているものを感謝しながら、受け取りながら、それでも地上のものには執着しないという生き方がはっきり見えて来るということが起こるのです。苦難の時にこそ神の存在がはっきり分かるのです。神は私たち一人ひとりの働きによって福音が全世界に広がる時を待っておられます。言うまでも

なく、伝道の主体は神であります。伝道を導くのは聖霊です。私たちは聖霊によって導かれ福音を証します。いわば神の器のようなものであります。器は脆い土の器であっても、器に盛られたものがキリストの福音であるなら、神が守り共に働いてくださいます。私たちが日々福音を宣べ伝えることにすべてを注ぎ出しているなら、終わりの日が何時であっても恐れることはありません。終末は突然来ます。私たちが眠っているのは駄目なのです。教会の交わりに留まり、礼拝を献げながら、終わりの日を待ち望む相応しい姿勢を保っていかなくてはなりません。目を覚まして人間の計画に惑わされることなく、神のご計画を表される徴をしっかりと見据えていなくてはならないのです。

『マタイによる福音書』が成立したのは紀元 80 年代だと言われているから、紀元 70 年にエルサレム神殿が崩壊した時、マタイの教会の人たちはこの時のキリストの言葉を思い出し、“今こそ伝道の時だ!!”と思いを熱くしたことでしょう。教会の使命はいつの時代であっても全世界に福音を宣べ伝えることです。キリストが語られた終末の徴は、教会に新しい命を与える、私たちが永遠の命へと招いてくださる希望の福音であります。終末を待ち望む教会として新しい週を歩み出しましょう。お祈り致します。

聖なる神、御言葉によって主イエス・キリストによるあなたの救いのご計画を鮮やかに示してくださいましたことを感謝致します。どうか福音が全世界に広がりますように。この礼拝を通して、教会学校の働きを通して福音が広がっていきますように私たちを用いてください。

今、混沌の中にありますこの世界を、あなたの御国を待ち望む世界へと新しくしてください。主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:こどもさんびか 79(『21』280「馬槽のなかに」)

献金

感謝の讃美歌:65-2「今ささげる」

感謝の祈り:神さま、今日は礼拝に招いてくださってありがとうございます。みことばを感謝いたします。この一週間をイエスさまと共に歩ませてください。このお祈りをイエスさまのお名前をとおしておさげいたします。アーメン・ 主の祈り

派遣:讃美歌 88「心に愛を」

祝福:主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:会員消息 1/5日、塩田武子さんが逝去されました。98 年の地上でのご生涯でした。葬儀はご家族で執り行われました。今姉妹が御国で平安でありますよう。また、ご家族の方々に主の慰めがあるようにと祈ります。以上謹んでお知らせ致します。(個主任担任牧師)

後奏:「たえにうるわしや暁の星よ」(M. レーガー)